





※前号に引き続き

キャリア形成のためのランチタイムセミナー第9回  
「継続は力なり」(2017年10月17日(火) 12:10-12:45)での  
森美和子先生の講演(後半)をお届けします。



前半は「ダイバーシティ通信」第8号で  
ご覧いただけます。

URL: [http://www.muroran-it.ac.jp/ge\\_ufr/images/past/dn8.pdf](http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/images/past/dn8.pdf)



でも(3か月のアメリカ留学から日本に)帰ってきますとやっぱり助手なんですよ。16年間助手を務めました。日本で16年助手を務めた人っていうのは、あんまりいないんじゃないかって言われましたけども。やっとその時に上の方が出られたので助教授に昇進しました。助教授になったって教授は私より5つ下なわけですから、いずれは出なきゃならないっていうのははっきりしてるわけ。プロポーザルをあちこちに出すわけですね、私はそちらに行きたいっていうのを。でも後で気が付いたんですけども、当時は女性の教授っていうのは日本人にはいなかったらしいです。ですから採用されるわけがないんですけども、そういう書類はもう何通書いたか分かりません。その頃、先程ご紹介いただきました猿橋賞っていうのが、1980年に猿橋勝子先生という方が、気象台研究所にお勤めになってたんですけど、退官の時に、色んな方から送別のお金を貰ったり、ご自分の退職金を合わせたりして、女性の研究者があまりにもひどい状態にあるから、「女性科学者に明るい未来をの会」っていうのを作られたんですね。どういう事をされたかっていうと、年に1人、自然科学全体の中から1人選んで、励まそうとうことですね。猿橋賞っていうのはそうやって作られたわけ。この賞が出来たことは私知ってましたけれども、全然ひと事だったんです。でも私自身が非常に可哀想な状態にだんだん入ってきたんで、化学会の中での知り合いの方から、猿橋賞に出してはどうですかって薦められました。1991年に応募しまして受賞することが出来ました。これに受賞できたってことの意味っていうのが、非常に貰ってから分かったんですけども。外から「あの人は研究者だ」っていうことを一応認めてもらったわけですから、私は大学の中で非常に小さくなってたんですけども、「あの人は猿橋賞を貰った研究者だから」ということで、「このままにしておいちゃ、ちょっと他所の大学に対しても恥ずかしい」というようなことも、教授会の人達の中にきつとあったんだと思います。たまたまそのとき教授が東大に帰られたんで。ポジションが私の研究室で空いたんですね。でもやっぱり女性を其処にすつと入れるのには抵抗があったみたいで、その隣に半講座っていうのを作って、私をそちらの方に入れて一応教授にしてくれたわけです。こういう期間のことを思い出すのも非常にこう、イリイリしてくることも多くって、「女性が研究を続けていく」これは他の分野でもあるんですけど、研究を続けていくっていうためには非常に強靱な精神力が必要だっていう事は今でも思います。これから研究者になれる方に厳しいことを言うんですけども、そんなことには負けちゃいけないという強靱な精神力を持って欲しいと思います。

その後、私も50代に直ぐなっちゃったんですけども、この50代の過ごし方っていうのは非常に女の人にとっては大事にして欲しい時期だと思います。このことだけは覚えておいて下さい。今日来てる学生さん。何でかっていうと、子育ても一段落します。不幸な事に介護の仕事っていうのもまあ大体一段落ついちゃうんですね。そうすると子どももどっかにいっちゃうし、時間は全て自分と夫の為にあるわけで、もう自分の為全部使える。そうすると今までウズウズしてたことを吹き飛ばすように色んなことが出来るわけですね。外国にもいくらでも行けるし、国際会議にも行けるし、招待講演を受けても全然心配しないで行けるし、書きたい論文もちゃんと書ける。ゆっくり寝られる、等々。研究者としてこれまで満たされない想いだったことが全部出来るわけですね。これは他の分野の方にもきつと言える事だと思うんですけども、是非とも充実した50代を過ごしていただきたい、と思います。

あとほんのちょっとですけどね、ちょっと仕事の話させてください。私は有機金属の仕事をしたときに、やりたいテーマをいくつか見つけたんですけど、その一つに空気中の窒素があるんですね。この窒素有機合成に使えないかなあなんてことを、文献を読んでいて思ったんですね。窒素というのはど

なものとも反応しないから、私達こうやって生きてられるわけですよ。空気中の80%は窒素なんですよ。ところが金属、チタンなんですけども、チタンって眼鏡やなんかに使ったりするあのチタンなんですけども。あれとある条件で反応させると、反応するっていう論文を見つけたんです。これはきつと有機合成に使えるに違いないと思ったんですよ。それでマスターコースを終わった学生さんがいたんで、今度は何しようって来たもんですから、いくつかテーマ出したら彼はやっぱりこの窒素が面白そうだっていうんで、すぐ始めました。それで窒素錯体を作って、文献に従って窒素錯体と称する物を彼は作って持って来てくれたんですね。黒い結晶だったんですね、結晶じゃない塊です。「これどうするの?どうやって確認するの?」って言ったんですけど。確認の方法は無いって言って、ふつと私気が付いたのは、3年生の学生実習のときに、有機定性分析で元素の同定というのがあって、検体の窒素の同定っていうのを思い出したんですよ。その学生さんに「有機定性のあれやってごらん」って言ったら、色々操作あるんですけども、最後になんかの試薬を入れると青くなるわけですね。青くなったら窒素が検体に入っているんだ。で、彼は早速やったら「先生青くなりました」って私のとこに持って来てくれたわけですね。その青色っていうのは私、今も忘れられないんですけども。それから彼はこれに色んなものを突っ込んで、そしたら窒素化合物と反応したものが取れるっていうことで、これは素晴らしいことだと思ってました。ところが薬学っていうところは非常に奇妙なところで「そういう訳の分からない事をしてたらあなたは学位なんて取れないですよ」とわざわざ言いに行く先生がいたんですよ、学生に。私には言わないんですよ。それで彼はカッときて、「それじゃあ良い分かった」って言って「アメリカ化学会の一番良い雑誌に出しゃ良いんですよ」っていうことになって、それからどんどん彼は仕事をしまして、結局はアメリカ化学会の雑誌に通して、学位も取って出て行ったんですよ。薬学っていうのは医学部の隣にあって非常に勉強の難しい学部だったんですけどもそういう所で仕事をしていくっていうのも結構色んな、色んなもう思い出したくない色んな事がありました。

若い学生さんっていうのは非常に凄いと私は思ったんですけど、どっかで伝え聞いて、この仕事をやりたいって言って、私の教室に入って来る学生さんが何人かいたんですね。それは北大の学生だけじゃなくて、日本中のどっかの大学の学生がマスターコースを受ける時に、この仕事をしたいって言って来てくれるんですね。そういう学生と一緒にあって、ですから結構これが良い仕事になりました。私達最初は使ったのはもちろん窒素のボンベにある窒素ガスを使うんですけども、最後には空気中の窒素、これさっきも言いましたように80%は窒素なんですよ。「この空気中の窒素だっって先生使えるはずですよ」って言い出した人がいて、「うーん」と思ったけども固定観念が私の方は強いから、「酸素も有るし、炭酸ガスも有るし、色々有るから、水も有るし」って言ったら「水は除けば良いんですよ」と言ってその人がやり出して、結局、空気中の窒素も窒素ソースとして使えるという仕事にして、非常に大きく発展したということがあります。だからあまり固定観念に囚われちゃ駄目だ。それと私この時に本当に思ったんですけども、若い学生さんの感性ですね。これは私やっぱり素晴らしいなと思います。その薬学の年取った先生が「こんな事したって何にも役にたたん」っていうのと比べてみるとね、非常にその事が私は今でも残っております。そろそろ時間が参りましたので今日の私の話はこれで終わらせていただきます。

ダイバーシティ通信 第9号(2018年9月)

国立大学法人 室蘭工業大学  
男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット(UFR)

〒050-8585

北海道室蘭市水元町27番1号(教育・研究1号館 A331室)

TEL: 0143-46-5194 / FAX: 0143-46-5195

E-mail: [ge\\_ufr@www.muroran-it.ac.jp](mailto:ge_ufr@www.muroran-it.ac.jp)

URL: [http://www.muroran-it.ac.jp/ge\\_ufr/](http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/)

本誌および大学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援して下さる

個人・企業からのご寄付を受け付けております。

詳しい手続きは下記URLをご覧ください。

[http://www.muroran-it.ac.jp/ge\\_ufr/kifu.html](http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html)

ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室  
Office for Promotion of Gender Equality

**女性研究者**  
**支援ユニット**  
Unit for Female Researchers